

令和7年1月30日

農林水産大臣 江藤 拓 殿

国産米使用推進団体協議会
一般社団法人 日本惣菜協会
公益社団法人 日本炊飯協会
公益社団法人 日本べんとう振興協会
一般社団法人 日本弁当サービス協会
全国米穀工業協同組合
全国米穀販売事業共済協同組合

米穀の需給及び価格の安定について（要請）

平素は、外食及び中食事業者の事業運営に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

最近における米穀の需給及び価格の状況については、令和5年産米の持越在庫の減少に加え、精米歩留まりの低下による原料玄米の消費が進んだことにより、米穀流通業界では、令和6年春先から逼迫感が生じておりました。その結果、米穀流通業者は、7月ごろには実需者への計画通りの供給が見通せない状況となり、さらに、外国人観光客の増加等による平年を大きく超える需要の中で、令和6年産米の前倒し供給で急場をしのいで参りました。一方、実需者も、ご飯の量を通常より減らしたり、大盛りやお代わりの無料提供の中止や有料化を行ったりするなど、その提供方法の変更を余儀なくされました。このことは、我が国の主食である米の需給及び価格の安定について、消費者に不安を生じさせる結果となったと認識しているところです。

令和6年産米については、米穀流通業者サイドは調達に尽力しているものの、JA及び全国農業協同組合連合会等にあっても集荷が進んでおらず、米卸売業者への販売提示数量は、例年に比べ低い水準となっております。具体的には、前年の販売提示数量の2割から3割減といった米穀流通業者が専らで、極端なところでは、8割減となっており、このような供給不足を背景に米の相対取引価格は過去最高となり、実需者は対前年比55%上昇という米価格高騰への対応として販売価格の引き上げを余儀なくされております。

本年は、昨年にも増して厳しい状況が予測される中で、この4月から大阪で開催される国際博覧会等に伴う外国人観光客の来日により更なる供給不足が生じ、場合によっては実需者への供給が滞ることも危惧されるところです。

このような状況では、これまで減少してきた米の消費の更なる減少のみならず、消費者の主食である米穀の需給及び価格の安定に対する不信感の高まりが懸念されるところです。

その懸念を払拭するためには、先行きの不透明感、不安感を解消することが必要であります。ついては、下記の通り要望致しますので、格段のご高配をお願い致します。

記

1. 今後とも、主要集荷業者・卸売業者に対する集荷量、販売量、在庫量の把握とともに、流通実態に関する定期的なヒアリングの実施を通じて、国民に対してきめ細やかで分かりやすい情報発信をお願い致します。
2. また、供給に支障を来さないよう政府備蓄米の活用を含め、迅速かつ適切な対応をお願い致します。

以 上